

きらボ通信

第4号(2009年12月)

明星大学ボランティアセンター(愛称:きらきらボランティアセンター)

— 広がる世界 つながる仲間 —

特集:2009 夏の学生ボランティア活動報告会 ~学生ボランティア活動のめざすものと課題~

ボランティアは自分のため

学校法人明星学苑理事長 蔵多 得三郎



いまからざっと50年ほど前のことになりましたが、大学時代の夏休みに、あるキリスト教団体の奉仕グループの人たちと関東近県のある戦災孤児施設の開墾を手伝いに行ったことがあります。松林を開墾して落花生畑にするのですが、いまのように重機があるわけではありませんので、夏の真っ盛り、大変な重労働の日々でした。それでも畑ができれば多くの戦災孤児たちの役に立てるとの思いで頑張ったことを思い出します。後日談ですが、その後40年の歳月を経て、ある社会福祉団体から役員として協力を要請されたのですが、それがなんとあの大学生時代にお世話になったキリスト教団体の経営する社会福祉団体だったのです。二つ返事でお引き受けさせていただいたことは

言うまでもありません。

大学生時代のこの時の思い出は、50年経った今も私の中に強く残っています。いまから思うと、あの戦災孤児施設での炎天下の経験は、その後の私の人生に紛れもなく大きなインパクトを与えているように思います。明星大学でボランティア活動をされている皆さん達に比べてささやかな経験でしかありませんのであまり偉そうなことは云えませんが、ボランティア活動というものは、決して他人のためにするものではなく、自分自身のためにこそ意味があるのではないか、と思うのです。ボランティア活動を通じて、学生の皆さんのこれからの人生が心豊かなものになることを心から願い、期待しています。

2009 夏の学生ボランティア活動報告会

～学生ボランティア活動のめざすものと課題～

- ①日時；平成21年10月12日(月) 18:10～19:30 交流会 19:40～20:20
 - ②会場；28号館1階プレゼンテーション室(100-3)
交流会：大学会館ボランティアセンター室
 - ③参加者；59名(学外参加者；日野市議会議員窪田知子、日野市社会福祉協議会浜野智之
あきる野市青年会議所/遠藤隆一理事長、森田康大顧問、実践女子大学学生他含)
 - ④報道；日野ケーブルテレビニュースH21.10.14～10.18 合計12回放映
- 【動画映像】；<http://hictstrm.hinocatv.ne.jp/>〔10月14日付2009夏の学生ボランティア活動報告会〕

昨年に引き続き「夏の学生ボランティア活動報告会」を開催しました。今年は、助言者として調布市市民プラザあくろす 市民活動支援センターから小林祐子副センター長にお越しいただき、学内の福祉、教育、環境などさまざまな分野の5つのボランティア団体の方々が、「学生ボランティア活動のめざすものと課題」をテーマに、思い出深い夏の活動報告をしました。学内外59名の参加者で、プレゼンテーション室がいっぱいになりました。終了後、きらボでの交流会も盛り上がり、昨年以上の楽しさでした。



「めばえの会」(浅野泰平君)



会場風景



司会 吉田太一君(あすなる代表)
石原舞さん(BUKAS代表)



渡戸センター長



BUKAS
小野美有紀さん、三浦彩さん

総 評

小林 祐子

(調布市市民プラザあくろす 市民活動支援センター 副センター長)

報告会に参加させていただきありがとうございました。会の進行を学生のみなさんが担当されるのは初めての試みということでしたが、協力しあいながら手際よく進められていたのが印象的でした。

めばえの会は代替わりしながらも活動のミッションを継承し、メンバー間で共有できているからこそ、長年地道な活動を継続できているのだろうと思いました。BUKAS は若者らしさにあふれ、創造的で先駆的なボランティアスピリッツを内包していると感じました。「幸せとはなんですか？」という問いかけが心に残っています。吉澤研究室の活動は専門性を生かし、自分たちの知識や技術を子どもたちや市民の学習につなげ、NPO などと連携しながら活動されている点が素晴らしいと思いました。大学という機関に対する外部からの期待は今後もますます寄せられていくことと思います。朝日キャンプは活動の現状と課題をよく分析され次のステップを見通している点、変化にあわせてプ

ログラムをかえていく柔軟性を備えている点は私自身見習うべきところです。Idear 研究会は発想がユニークだというだけでなく、気づきを引き出す、投げかけるという大きな意味のある活動だと思います。

対象もフィールドもさまざまな5つの活動報告でしたが、それぞれにのびのびとした活動を展開されていて今後の可能性を感じるものでした。学生のみなさんには失敗を恐れずこれからもチャレンジを続けていってほしいと思います。



助言者 小林祐子氏

ボランティアセンターでの交流会



実践女子大学ボランティア同好会



交流会



BUKAS

ボランティアサークル「めばえの会」 ～夏の活動報告～

めばえの会

浅野 泰平（心理・教育学科心理学専修 2年）

めばえの会では、夏の間も定期的に活動を行っていますが、双方の予定もあるため、毎年8月中旬までをひとつの区切りとしています。それ以降は、サークル全体としては休みに入りますが、近隣施設等からのボランティアの依頼などもあるため、それに参加する人もいました。夏の活動の中で、とりわけ大きなものは2つあります。

1. 「竹ん子キャンプ」の実施(竹ん子の皆さん10名、学生19名参加)

普段の竹ん子の活動は、車椅子の方たちと、お出かけやクッキングを通してふれあおうというものですが、夏は長期休暇を利用して、毎年8月上旬に1泊2日のキャンプ旅行へ出かけます。今年は、八景島シーパラダイスと、その周辺の観光をしてきました。天候にも恵まれ、いろいろなところを見て回ることができ、めばえ一同、楽しい思い出がまたひとつ増えたように思います。



[八景島シーパラダイスへ(H21年8月4日～5日)]

2. 「移動教室」の実施(学級生さん4名、学生4名参加)

ここで挙げる「移動教室」とは、日常活動で連携している「日野市障害者問題を考える会・障害者訪問学級」からお話をいただき、訪問学級の学級生さんたちと一緒に、1泊2日、或いは2泊3日の旅行のことをいいます。この移動教室の目的としては、障がいを持った人たちにも、外での観察や体験を通して、いつもとはまた違ったものを感じてもらおう、というものです。普段は見られない一面も見られ、貴重な体験ができたように思います。

保護者も交えて行った学生企画のレクリエーションでは、みんなで盛り上がりました。



[ハヶ岳高原へ(H21年9月12日～13日)]
移動中のバスの中。みんなで歌を歌いました！

【トピックス】

「めばえの会」は日頃からのボランティア活動が評価されて、平成21年度財団法人学生サポートセンター主催「学生ボランティア団体」助成制度に入選しました。(表彰式は青山ナジックセミナーホールにて平成22年2月に実施されます。助成金額10万円。)

ブカス BUKAS フィリピンボランティアツアー

BUKAS (フィリピンスタディーツアー)

小野 美有紀 (心理・教育学科 1年)

三浦 彩 (心理・教育学科 1年)

私たち BUKAS は今年の夏にフィリピンでボランティアスタディーツアーに行っていました。そこで、多くの事を見て、学ぶことができました。

具体的に私たちが行った活動は、Karalo (ストリートチルドレンとの交流会)、老人ホームの訪問、孤児院ボランティア、小学校見学、幼稚園の庭整備などです。今回は、その中の Karalo について発表したいと思います。

Karalo とはストリートチルドレンとの交流会のことで、タガログ語で「遊び仲間」という意味があります。フィリピンにはストリートチルドレンの問題があるということと、いろいろな子ども達と遊びたいという気持ちから Karalo をやろうと思いました。

Karalo をやる以前、子どもたちに対するイメージは、凶暴、物を盗んでしまう、話を聞いてくれない、並ぶなどのルールがわからないのではないなど子どもたちについて暗いイメージばかりをもっていました。しかし、実際はイメージと全く違い、私たちが考えた遊び1つ1つを思いっ

り楽しんでくれていました。その笑顔は本当にキラキラしていました。その笑顔を見た時、今までの不安が吹き飛んでしまいました。

私たちが寄付したわずかなお菓子を家族のために持って帰る子どもたちがいました。小さな体からあふれんばかりの大きな愛にメンバー全員が心を打たれました。誰かを思う気持ち、何かをしたいという気持ち、素直に喜べる気持ち、笑顔を見たいと頑張れる熱いハート・・・みんなで作り上げた Karalo は本当に暖かかったように感じます。

貧しさの中にある豊かさを肌で感じました。幸せそうに笑う子どもたちを見て、「幸せ」って何だろうと考えさせられました。皆さんにとって「幸せ」とは何ですか？今回のツアーで、普段は見逃している大切な物を見つめ直せたと思います。

皆さんに頂いた募金は、現地での活動物資、孤児院への寄付金に使わせて頂きました。ご協力ありがとうございました。



ベース基地となった孤児院 P&J にて
ツアーの仲間たち



マニラでの「^{カラロ}karalo」に参加した子どもたちと
メンバーの記念撮影

環境教育

環境教育（吉澤研究室）

渡邊 和也（環境システム学科 4年）

五島 あき子（環境システム学科 4年）

私たち吉澤研究室は環境システム学科の研究室内で、環境材料学について研究しています。環境材料学というのは、生分解性プラスチックや炭など環境負荷の軽い素材のことをいい、環境問題対策として注目されている分野です。この環境材料学について、多くの人が関心を持ってほしいという点からボランティアに参加しました。4月18日に昭和記念公園の花みどり文化センター（一般向け）、9月11日に中野区立第五中学校（中学生向け）で行いました。

花みどり文化センター、中野区立第五中学校ともに炭の吸着力や浄化力を知ってもらえるような実験や講義を行いました。実験は炭楽器（炭琴）、エチルアルコールの臭い吸着、青インクの脱色、炭電池を行いました。これらの実験には全て炭を使用します。炭（炭素）は自然界で分解されずそのまま残るため二酸化炭素の削減に効果的です。この炭には無数に小さい穴が開いています。穴の大きさは約1nmでこの穴によって湿度調節や臭いの成分を吸着することができます。炭の効果を利用し、エチルアルコールの臭い成分や青インクの色成分を取り除くことができます。

花みどり文化センターでの講演は親子連れが多く見られました。炭を用いた実験は主に小学生が興味を示してくれました。中でも青インクの脱色に驚く子どもたちが多く、人気がありました。参加者から「なぜ炭にはこんな効果があるんだろう」という疑問が「炭にはこんな効果があるのか」になり、楽しみながら環境について考えてくれました。

中野区立第五中学校での授業は、まず初めに折り紙を折ってもらい七輪で炭焼きにするという簡単な炭作りを行いました。炭を焼いている間は、炭の説明や実験を行いました。環境に対して関心の高い方が多く、楽しみながら実験をしてくれました。「なぜ炭は黒いのか」「人間も炭になるのか」など難しい質問もありました。授業の最後に焼きあがった折り紙の炭を取り出しました。

これらの活動を通して、普段は教えられている学生の立場から、相手に教えるという立場になるという貴重な体験となりました。



花みどり文化センター(H21.4.18)



中野区立第五小学校

緑の保全活動

緑の保全活動

山口 星太郎（環境システム学科 4年）

今回私はボランティア活動の一環として、青梅の山にて木の間伐、多摩センター付近の竹林にて竹の間伐を行いました。

9月12日に行われた東京都環境局の主催で環境学習研究会が協力した、東京グリーンシップ・アクションという活動に参加いたしました。この企画はコココーラボトリング（株）が共催していました。生憎の雨模様となりましたが途中で晴れ、午前中に木の間伐を行い午後は青梅の自然についての講義、伐採した木材を使っての工作を行いました。参加者には家族づれの方や他大学の方等、多数の参加者がおり、明星大学からも10名ほど参加しました。参加者はいくつかの班に分かれ、のこぎりや鉋をスタッフの方から借り、それぞれ違う場所での作業となりました。

事前の説明で樹木の間伐についての講義があり、間伐を行うことで適度な日光が入るため、下草や樹木の生育につながり、下草が生育することにより土壌の保水力が上がるため土砂災害の予防にもつながると教わりました。私が入った班では、午前中の伐採の時間に3本ほど伐採し、その内の一本がヒノキだったため、一部を持って帰り工作の材料として使いました。スズメ蜂などに襲われそうになりましたが、大きな怪我もなく無事

に伐採をすることが出来ました。また、この日は他学科の同級生や違う大学の学生の方との交流や、普段まったくとっていいほど縁の無い伐採という作業もあり、とても良い経験ができたと思います。

多摩センターの活動は10月3日に恵泉女子学園大学と東京都環境局の主催である東京グリーン・キャンパス・プログラムに参加しました。この活動での明星大学の学生数は7人ほど、私と一緒に研究室の友人が三人ほど参加していました。この日も朝から雨が降っていましたが、現場に着いた時には止み、この日も伐採を午前中、午後は工作か伐採の時間となりました。私と友人は工作をせず、午後も引き続き伐採をしていきました。

現地のスタッフの説明によれば、竹林は竹の密度が高いと、外側に広がるため適度に伐採していかないと、雑木林や民家にまで侵入してしまうとの説明を聞きました。竹と竹の間の目安は番傘が開いた状態で通れる広さが良いそうです。森も竹林も細かく管理しなければ災害などにつながるということがわかりました。

今回の活動に参加してよかったと感じています。



伐採の様子



竹林にて

感動、共感、つながり

NPO 法人朝日キャンプ

笠原 雄（人間社会学科 3年）

私たちが活動している NPO 法人朝日キャンプとは学外で行われている学生中心のボランティア団体です。主な活動の内容としては、夏休みに山や海で行う障がい児・者との2泊から3泊のキャンプというのがあります。今年は山・海キャンプ合わせて3回のキャンプを行ってきました。今回の活動報告では夏休みの活動内容や感想、そして、これからの活動についての報告をさせていただきました。

さて、今回初めて活動報告会に参加させていただき、ボランティアにもたくさんの種類があることや、こういった報告できる場がいただけるということがどんなにいいことなのかということを感じました。実際に報告といってもそこまで緊張しないだろうと思っていましたが、いざ会場に足を運ぶとそこには学長をはじめ、多くの先生方やボランティアセンターの方、そして地域のボランティアの方々などたくさんの人たちが集まっていました。しかも今回はそこに多摩ケーブルTVまで来ていたので、緊張で頭が真っ白になりました。正直、今でもほかのボランティア団体の話は覚えているのですが、私が話したことはほ

とんど覚えていません。しかし、私はこういった場で話すという機会がほとんどなかったのも、こうした機会を今回与えていただき本当にいい経験になったなと思います。

広がる世界、つながる仲間というコンセプトの中で行われた報告会。私はそこで、ほかのボランティア団体の発表を聴いて本当に感動しました。それぞれが行っている活動自体には表面的にみるとつながりはあまりないような気がします。しかし、皆さんのそれぞれの活動に対する想いや情熱、そしてやりぬいてしまうエネルギー、努力など、私はそういったことには似たような部分がたくさんあると感じられました。そして、同時にたとえほかの団体であること、また、行っている活動が異なっていたとしても、根底の部分ではたくさんの共通部分があるということを知ることができ、さらに頑張っていきたいと思いました。

最後になりましたが、こういった機会を作っていただくことはとても素晴らしいことだと思います。小さな一歩から、新たな世界へと進んでいくのを楽しみにしています。本当にありがとうございました。



武尊山（ホタカサン）



リーダーと子どもたち

I 研「ホタル見学ツアー」と「緑のカーテン」

Idear 研究会

坪内 大二郎（機械システム工学科 4年）

☆ホタル見学ツアー

日野校にはゲンジホタルが自然に生息している場所があります。私たちは、このことについて「もっと多くの人に知ってもらいたい」「ホタルをきっかけに環境に関する関心を持ってほしい」という気持ちで見学ツアーを企画しました。参加者は、47名。6月の下旬から7月の中旬にかけて合計5回行いました。各回で平均して、見ることができた頭数は、3～4頭ほどでした。中には、1頭も飛んでない日があったりなど困る日もありました。ツアーを進める上で、ホタル博士をお呼びして勉強会を行ったり、地域の方と学生とで協力して、フィールドのゴミ掃除を行ったり、ホタルとどのように接していくべきか話し合ったり、近隣のアパートの廊下の明かりを制限させてもらったりしました。フィールドのホタルは、関東固有種のゲンジボタルで3秒から4秒と長い

間隔で光ります。それがとても幻想的に見え、参加者からは、企画者としてはうれしい感想をもらいました（来年度は、広報に力を入れより多くの人に見に来てほしいと思います。また、ツアーを作りたい人ぜひ集まってください）。

☆緑のカーテン

「Star way」の22号館の前の場所で5月～10月にかけてゴーヤやへちまを植えて行いました。今回は、土づくりや肥料などが十分でなく、果実の発育が悪かったり、ツルの伸び方が偏ってしまったり、夏休みの水やりに苦労したり、完璧なものにはなりませんでした。少しは「身近に緑を育てよう」というメッセージを伝えられたと思います。



ホタルと見学ツアー前の勉強会



ゴーヤなどのツル科植物の緑のカーテン



学生ボランティア活動に期待するもの

お茶のみ話にお耳を拝借 海外ボランティアと災害ボランティアの夢

垣内 国光
(人文学部 人間社会学科 教授)



きらボセンターの事業は順調にすすんでいますが、実は壮大すぎて実現していないアイデアもあるんです。荒唐無稽かも知れませんが、お茶のみ話にいかがですか？

ひとつは、海外ボランティア事業の夢です。明星大学は語学系、教育系、福祉系などが充実していますが、これらを生かしてアジアなどで教育や福祉分野で継続的なボランティア事業が可能ではないでしょうか。すでにフィリピンなどで短期間のボランティアが先駆的に取り組まれています。アジア地域で教育支援、孤児支援などが継続的に展開できたら素敵です。アジアからの留学生の母国との連携を強めるかたちでも可能かと思われまます。

もう一つの夢は災害ボランティアの夢です。学内には災害対応マニュアルがあるそうですが、それだけに留まらず積極的に災害に対応できるボランティア事業があってもよいのではないのでしょうか。この災害ボラは、多摩地域に災害が発生した場合と遠くで災害が発生した場合が考えられます。

多摩地域に災害が発生した場合には、自治体や中央大学と共同して、地域住民の避難場所として受け入れることができる体制を築くことです。大

学としては、水・食料備蓄や簡易ベッド整備などが必要です。ベッド組み立て、配給、誘導など避難民受け入れ体制をつくるためのボランティア組織があってもいいのではないのでしょうか。

また、阪神淡路大震災のような他地域での災害に対しては、現地に先遣隊を送り込み、その情報に基づいて災害ボランティア派遣を行うことも考えられます。阪神淡路の災害では学生の学習に支障がでないよう2週間交代でボランティアを送り込み、特定地域で頼りがいのある大きな力を発揮した他大学のケースがあるそうです。明星には理工学部がありますので機動性も確保できるのではないのでしょうか。

大学が大学であるためには、優れた研究・教育が行われることはもとよりですが、現実社会と向き合い社会貢献をすることも忘れてはなりません。

明星にはボランティアのエネルギーが満ちあふれています。いつか“ボランティアの明星”なんて評価を受けられるようになれるといいですね。

あすの明星に向かって、こんな夢をしばし学内の話題にしてみてください。

学生の活動現場から

1、学生ボランティア団体活動紹介

知的障がい者のための生涯学習講座「オープンカレッジ東京」で、 明星大学ダンスサークル「DASH!」が大活躍！！

島田 博祐

(人文学部 心理教育学科教育学専修 教授)

オープンカレッジ東京は、知的障がい特別支援学校の卒業生等を対象とした生涯学習講座で、学齢期において十分に学べなかった地域生活に必要な適応スキルを補填学習することと、余暇活動を通じての仲間づくりという2つの主要な目的で毎年行われており、都内のいくつかの大学及び特別支援学校の教員、学生らが運営に携わっています。今年も10月4日(日)に明星大学日野キャンパスで開催しました。内容は“Let's DanceⅢ”というダンスを楽しむ講座で、私(島田)が進行役をし、ダンストレーナーとして、明星大学ダンスサークル「DASH!」の皆さんに協力していただきました。

まずは皆で準備体操、DASHのメンバーの素敵なパフォーマンスをみた後、いよいよダンスレッスン。レッスンは5班に分かれて、それぞれがDASHのメンバーとともに独自の振り付けを練習し、その後、班ごとに発表をしました。ヒップ

ホップ系のステップを織り交ぜ、「残酷な天使のテーゼ」から「さんぽ」まで様々な音楽に合わせて汗をかきました。各班のダンス発表には、みんな大喝采。VTRでの振り返りでは、ウンウンとうなずいて満足そうな顔も。開講パーティもあり、盛りだくさんの4時間があったという間に過ぎました。

ボランティアサークルでないことから、知的障がい者と初めて接する学生も多かったはずなのに、自然に打ち解け、わかりやすく楽しい指導を心がけてくれました。スタッフの特別支援学校の先生方も「明星大の学生の感性は素晴らしいね!」と絶賛で、私も教員としてとても嬉しい思いでした。言葉でなく心で伝わる、ダンスっていいですね!



DASHキャプテン・大平宏君((経済学部経済学科3年))のコメント:今回、参加するまでは不安でした。知的障がいの方と接する機会は今まで全くない者が大半で、何をどうしたらいいか、不安でいっぱいでした。しかし参加してみると不思議な事に不安を感じるどころか、とても楽しむ事ができました。参加者の皆様もダンスをととても楽しんでいただけたようで、私たちも非常にリラックスできました。また機会をいただけたら、参加したいとDASH!メンバーもみな言うておりました。最後に少しだけ宣伝を、私たちは毎年12月に定期公演を行っております。創作ダンスを中心にストリートダンスも躍りますので興味のある方はこちらのアドレスまでご連絡ください。チケットや公演の詳細ご連絡致します。gonta-santa_my_home_dog@docomo.ne.jp

~~~~~

## 2、学生ボランティア活動紹介

### 交通安全ボランティア

秋の全国交通安全期間中の9月21日から9月30日にかけて行われた交通安全ボランティア活動が、日野警察署ならびに交通安全協会から表彰されました。期間中、高幡交差点、高幡不動前交差点等において、地域住民の方々へ横断サポートや交通ルールの遵守とマナー向上等の啓発活動を行いました。



後列左から廣田克也君(心理1年)、今井孝君(物理4年)、  
當間幸太郎君(環境2年)、  
前列左から吉野中君(心理4年)、野川育美さん(人間社会  
4年)、渡戸一郎センター長



~~~~~

3、きらボの勤労学生たち

きらボでの1年間

◆吉野 中^{あたる} (心理学専修 4年)

10月を境に、私の勤労奨学金でのボランティアセンター勤務が終わり、新しい勤労生に変わりました。私たちは、ボランティアセンターの勤労生としては初めての代で、センター自体が設立して間もない状態でしたので、試行錯誤の一年でした。

1年の時から授業のみの大学生活でしたので、勤労奨学金という形で、さまざまなサークルや他大学との交流ができるボランティアセンターに配属されたことは幸運なことだと思います。ボランティア活動をサポートするという働きが重要で大変なことだということを目の当たりにしながら、充実した一年を過ごせました。畑野さん、宮崎部長、渡戸センター長、そして共に配属された小川君と柳田君、ボランティアサークルの皆さん、すばらしい方々と知り合えて、奨学金以上のものを得られたと思います。ありがとうございました。

◆小川 翔平 (人間社会学科 4年)

ボランティアをする人は、心を形として表現するのが上手い人が多いということを、よく考えてきました。

困っている人を見かけたら、条件反射的に助けようとする人が多いのではないのでしょうか。サークルは、その一つ一つの形を集合的に構築するだけでなく、芸術作品の総体として、また自己表現の形として成立してるものだと思います。きらボの前に飾ってあるサークル紹介のパネルは活動の表現ですが、目を凝らして奥を見れば、ボランティアをする人の優しさや心豊かさを感じ取れる作品として、精神的側面を捉えることもできると思います。今後も、ボランティアセンターは、沢山の心と形が生まれる場所であって欲しいと思います。

職員の宮崎部長、畑野さんには、大変お世話になりました。一年間働けて本当に幸せでした。ありがとうございました。

◆柳田 大地（経営学科 3年）

私が勤労奨学生としてボランティアセンターにも配属されて早くも1年が過ぎました。この1年はボランティアセンターとしても1周年を迎え、2年目にはいる1年でした。勤労奨学生としての業務もマニュアル化されたことだけでなく、そのマニュアルを作ったり、改良したりということを行ってきました。こういったことはなかなか経験できることではないので、良い経験になりました。これからもボランティアセンターがより良くなるように微力ながら頑張っていきたいと思っています。

ここまでボランティアの話がなかったので1つ。私が所属している児童文化研究会（人形劇団

まめ）では人形劇をいろいろな所で行いました。

私は3年ということもあり、もう1年継続して業務を行います。これから、新しく入ってきた仲間と一緒に頑張っていきたいと思っています。



左から、吉野君、小川君、柳田君

きらボ☆星友祭 報告

11月1日(日)から3日(火)に行われました星友祭に「きらボ」も参加しました。学外からは、「日野わーくわーく」「日野療護園」「日野市環境保全課」の方々、学内からは「めばえの会」「Idear研究会」「理工学部電気電子システム工学科」「伊庭研究室」等、ボランティアサークルだけではな

く個人の方々も準備から色々お手伝いしてくださいました。おかげさまをもちまして、盛況のうちに星友祭を無事終えることができました。是非とも来年度以降もご参加・ご協力くださいますよう、よろしく願い申し上げます。

日野わーくわーく (11/1~11/3)



日野療護園 (11/1)



ふだん着でCO2を減らそう宣言 (11/2)

日野市環境保全課、電気電子システム工学科
伊庭研究室、めばえの会



車いす体験 (11/1~11/3)

電気電子システム工学科 (29号館1階)



☆センター活動報告☆

ここでは2009年8月以降の本センターの主な活動、団体登録の状況について報告します。

2009年8月からの主な活動

月	日	行事等
8	10	「地球緑化センター」来室
	22	トワイライトショー (31名来室)
9	3	「やまぼうし」来室
	11	「神奈川大学ボランティア支援室」交流会参加
	15	第6回学生VG会議
	17	「お助け個別補習塾」来室、「Idear研究会」ミーティング集合写真撮影
	28	「NPO自然の学校」来室
	30	日野市障害者生活センター「くらしごと」来室
10	2	「BUKAS」来室、第3回VC運営委員会
	3	「星友祭実行委員会」来室
	6	第7回学生VG会議、「日野・わーくわーく」来室
	12	学生ボランティア活動発表会 18:00~19:30 助言者:調布市市民プラザあくろす市民活動支援センター副センター長 小林祐子氏
	15	「へき地教育研究会」ミーティング
	16	「Idear研究会」ミーティング、「へき地教育研究会」星友祭準備、「めばえの会」打ち合わせ
	20	第8回学生VG会議、高幡不動尊境内での防犯ボランティア
	21	「すみれいきいきケアサポート」来室
	22	「めばえの会」ミーティング
	27	伊庭研究室学祭準備
	28	「日野・わーくわーく」来室
	30	星友祭テント準備 (めばえの会、Idear研究会)
11	1	「日野・わーくわーく」「日野療護園」星友祭参加、「すずかけの家」「教育研究部」来室、「Star☆Shops」プレオープン
	2	「日野・わーくわーく」「日野市環境保全課」「めばえの会」「伊庭研究室」星友祭参加
	3	「日野・わーくわーく」星友祭参加、「実践女子大学ボランティア同好会」来室
	4	「めばえの会」、「I研」、「すずかけの家」片付け参加
	7	普通救命講習会 (教育研究部)
	10	第9回学生VG会議
	11	ひまわりミーティング

12	めばえの会ミーティング
16	「NPO 自然の学校」「滝乃川学園」「日野市旭が丘サッカークラブ」来室、「めばえの会」集合写真撮影
19	「めばえの会」打ち合わせ
20	「ドナルド・マクドナルド・ハウス財団」来室
24	第10回学生VG会議
27	第4回VC運営委員会

◆ボランティアセンター登録団体 (2009年11月末現在)

学内	11	①教育研究部 ②ボランティアサークル「めばえの会」③初等教育研究会「どろんこの会」④ボランティアサークル「SMILLY」⑤I dear 研究会 ⑥朝日キャンブ ⑦ひまわり ⑧へき地教育研究会 ⑨児童文化研究会「人形劇団まめ」⑩明星大学ごみ拾いサークル「サンクス！」⑪海外支援サークル「あすなろの会」
学外	53	①障害児放課後活動クラブオンリーワン(府中市八幡町)②NPO 法人 Filo (多摩市落合) ③NPO 法人 Hope Scoop Asia (福生市本町)④「めばえ」の会(青梅市新町)⑤コシヒカリの郷南魚沼市自然体験村実行委員会(新潟県魚沼市六日町)⑥日の出町ボランティアセンター(西多摩郡日の出町)⑦NPO 法人日本子守唄協会 東京多摩支部(福生市加美平)⑧社会福祉法人武蔵野会 すぎな愛育園(八王子市台町)⑨ひの市民活動団体連絡会[ひの市民活動支援センター](日野市日野)⑩日野市立つばさ[自立訓練・就労](日野市旭が丘)⑪日野市立やまばと[地域活動支援](日野市旭が丘)⑫NPO 法人なかよし会 なかよしクラブ(三鷹市牟礼)⑬あさやけ作業所(小平市小川)⑭NPO 法人全国移動サービスネットワーク(世田谷区船橋)⑮ひの炭やきクラブ(町田市小山町)⑯水と緑の日野・市民ネットワーク[みみネット](日野市日野本町)⑰児童福祉施設れんげ学園(東大和市芋窪)⑱都立多摩桜ヶ丘学園 島田分教室(多摩市中沢)⑲社会福祉法人 東京光の家(日野市旭が丘)⑳社会福祉法人 夢ふうせん 工房夢ふうせん(日野市旭が丘)㉑東京都日野療護園(日野市落川)㉒日野市 環境情報センター(日野市日野本町)㉓東京 YWCA 国領センター(調布市国領町)㉔社会福祉法人共働学舎(町田市小野路町)㉕日野市国際交流協会(日野市本町)㉖NPO 法人 ふみ月の会(調布市布田)㉗立川市青春学級(立川市柴崎町)㉘あきる野市社会福祉協議会 市民活動推進係(あきる野市平沢)㉙VFM 東京(青梅市)㉚いきいきふれあいフェスティバル実行委員会(青梅市今寺)㉛島田療育センター(多摩市中澤)㉜あきる野青年会議所(あきる野市秋川)㉝日本児童野外活動研究所(品川区西五反田)㉞日野・発達障害を考える会「スキッパー」(日野市多摩平)㉟特定非営利活動法人 療育ネットワーク川崎(川崎市多摩区)㊱CoCoA(豊島区東池袋)㊲社会福祉法人 ココロ学舎(西多摩郡瑞穂町)㊳社会福祉法人 至誠学舎立川 至誠ホーム(立川市錦町)㊴ボランティアグループこすもす(日野市多摩平)㊵NPO「おたすけ個別補習塾」(日野市三沢)㊶地域デイサービステイクオフ(立川市高松町)㊷日野市障害児クラブ(日野市平山)㊸野楽(tama Rock)(府中市是政)㊹NPO 法人 グループゆう(東大和市中央)㊺財団法人日本野鳥の会(日野市南平)㊻日野市青少年委員の会(日野市神明)㊼NPO 地球緑化センター(中央区八重洲)㊽ペットを災害から守る市民の会(立川市高松町)㊾社会福祉法人 山の子会 山の子の家(日の出町大久野)㊿すみれいきいきケアサポート(八王子市台町)㊽滝乃川学園(国立市谷保)㊿財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン(新宿区西新宿)㊽スプーの会(新宿区赤城下町)

◆ 明星大学ボランティアセンター運営委員会の構成 (2009年11月末現在)

役 職	氏 名	所 属
センター長	渡戸 一郎	人文学部 人間社会学科 教授
副センター長(日野校)	吉澤 秀二	理工学部 環境システム学科 教授
〃(青梅校)	菱山覚一郎	一般教育(青梅校) 社会科学 准教授
学生部長	小鍛冶徳雄	理工学部 電気電子システム工学科 教授
センター長が必要と認める者	垣内 国光	人文学部 人間社会学科 教授
	島田 博祐	人文学部 教育学専修 准教授
	黒岩 誠	人文学部 心理学専修 教授
	村山 光子	日野校 学生課長
	百木 英明	青梅校 事務局次長兼青梅教学課長
事務局長	荒井 徹	
専任職員	宮崎 茂男	日野校 ボランティアセンター課長兼務
	畑野 理美	日野校 ボランティアセンター
	大和田知子	青梅校 教学課学生担当
オブザーバー	石田健太郎	人文学部 社会福祉実習指導員

◆ 11月1日、明星大学12号館1階フロアに学生カフェ「Star☆Shops」がプレオープンしました。2年前から企画を練ってきた情熱的な学生有志の皆さんの心が、近隣の社会福祉系NPO「やまぼうし」の伊藤理事長の心を動かし、法人本部、大学教職員等の多くの方々のご賛同とご期待の中でのスタートとなりました。正式オープンとなる日が楽しみです、基本理念である一学生発；『明るく活気あるキャンパス・ともに生きるまち』作り推進一の実現努力に心からのエールを送りたいと思います。

11月5日から、ボランティアセンターに爽やかな新勤労奨学生3名が加わってくれています。勉強や部活と共に、勤労奨学生としての体験を通じて心豊かな充実した学生生活を過ごして欲しいと願っています。

今回の「きらボ通信」巻頭言は蔵多得三郎理事長にご執筆頂きました。これから寒い季節を迎えようとしています、心温まる文書に触れて、身も心も一緒に温まる思いがしており、事務局一同深く感謝致しております。

(ボランティアセンター課長 宮崎茂男)

◆ 10月12日、昨年引き続き、「夏の学生ボランティア活動報告会」を開催することができました。

今年も、受付、司会進行等、学生ボランティアグループの皆さんが担当し、参加者も学内外59名となり、昨年よりもさらに充実した報告会となりました。自分の自由になる時間の比較的多い学生時代。夏のボランティア活動での色々な方々との出会いは、大学では経験できない、さまざまな体験や課題を経験できます。共同作業の大変さや楽しさを実感することができます。

11月1日～3日の星友祭では、地域の団体の方に出店いただき、「きらボのお店」として模擬店に参加することができました。

企画が終わるごとに、学内外の方々とのつながりがさらに深くなり、タテ、ヨコのつながりばかりではなく、ナナメのつながりもでき、きらボの仲間たちの輪がどんどん広がってきたように思います。

「つながり」のお蔭で思いがけないうれしい出合いがたくさんありました。本当にこの「つながり」には不思議な力があると思います。

(ボランティアセンター 畑野 理美)

きらボ通信／第4号

2009年12月1日発行

明星大学ボランティアセンター

日野校

〒191-8506 東京都日野市程久保 2-1-1 明星大学日野校 22号館 203 (大学生会館 2階)

Tel:042-591-6231 (直通) Fax:042-591-6261 E-mail: kiravo@gad.meisei-u.ac.jp

青梅校 (青梅教学課 [学生担当])

〒198-8655 東京都青梅市長淵 2-590 明星大学青梅校 共用棟 B館 1階 J-112 教室

Tel:0428-25-5178 (直通) Fax:0428-25-5181 E-mail: kiravo@agora.meisei-u.ac.jp